

令和6年度 江戸川区立松江第四中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よく考えて自らすすんで学び 体験を通して豊かな心を育む 健康でたくましく生き抜く	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	生徒の希望や夢を育む学校 よく学び 心ゆたかに たくましく 授業改善に努め、学びを継続し、人権を尊重し、人間性を高められる教師
前年度までの本校の現状	成果 ①基礎学力の向上（全国学調 R4自校比 国+5、数+9） ②不登校生徒、特別な支援を要する生徒への支援の充実（第二校内別室、別室支援員9名） ③体力の向上（都体力調査 全体区比+1）	課題	①主体的で対話的な学習の更なる推進 ②校内別室登校生徒の次のステップへの計画的な移行 ③校務分掌の整理と学校環境の整備

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	マイトレポートや生活手帳を活用し、自己の学習状況や課題、目標等を管理する。よむYOMUワークシートを有効活用する。	全国学力調査「家で計画立てて勉強している」①と②の回答割合85%以上	75%		B	家庭学習の課題として、週末の学習時間が極端に減少する（1時間以上の家庭学習、平日は58.8%、週末は21%）ことがわかった。この傾向を生徒と共有し、改善を呼びかける。	B	学校が呼びかけるだけでなく、家庭の協力を得ることを意識して欲しい。					
		年3回校内研究授業で授業者の授業を参観する。協議会では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に重点をおいて協議する。	全国学力調査「課題解決に向け、自分で考え、自分から取り組んだ」①と②の回答割合85%以上	80%		B	①と②で74.2%と目標に届いていないが、校内研修は工夫して企画運営されており、また、研鑽意識も高まっている。	B	先生方が授業改善の研究を行うと、生徒の利益につながるので、今後も励んでください。					
	＜外国語教育の推進＞ ・授業力の向上とALTの効果的な活用	・少人数を活かしたスピーキング力の向上 ・英語検定の受験率向上	・英語を使っている会話力の実感（80%） ・英検受験者70名以上	80%		B	英検、第1回は48名が第2回には68名と大幅増加した。意識づけの周知が功を奏した。	B	英語を使う機会が少ない生徒が多いので、是非学校で会話する機会を多く設けて欲しい。					
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学校図書館の活用で探究的な学習に取り組む（80%）	A		A	図書室のバーコード化を行い使いやすい環境整備を図った。探究的な学習に結びつけることが課題。	A	課題発見、解決型の学習に読書活動を結びつけて欲しい。					
体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・単元の技能向上を意図した補助運動の実施 ・外遊びや部活動を通じた運動体験の機会向上	・都体力調査において区都を上回る。	80%		B	昼休みに校庭で活動する生徒が多く、体力向上や運動習慣に寄与している。	B	昨年度は区だけだったので、今年度は都の平均を上回るよう頑張ってください。					
	・すべての教育活動を通じた生活習慣の改善	・睡眠に関する指導 ・歯磨きの奨励	・睡眠時間の増加（80%） ・虫歯の減少	80%		B	規則正しい就寝70.7%、起床89.6%。就寝時間が安定するよう様々な場面で指導していく。	B	どんなに学校が呼びかけても、家庭の協力が欠かせないと思うので、家庭への働きかけも行うとよい。					
実現に向けた共生社会の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・SC、巡回心理士の情報共有と組織的支援 ・保護者との関係づくりと機関諸機関との連携 ・エンカレッジルーム、相談室の活用	・生徒・保護者の悩みが、教師やSCなどとの相談や面談、エンカレッジルームの活用によって縮減・解消できる（80%）	95%		A	2部屋あるエンカレッジルームを活用するとともに、別室指導支援員を9名任用し、校内別室指導の充実を図った。	A	教室には行けない生徒の居場所が学校内にあることはとても重要。校内別室指導支援事業に参加し、別室指導に先進的に取り組んでいる点を高く評価する。					

不登校・いじめ対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> 不登校支援委員会の充実 オンライン面接、授業配信の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校とのつながりの確保（タブレットの活用など） 外部専門機関の積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> どこにもつながりのない生徒をゼロにする 	90%		A	外部専門機関を積極的に活用した。どこにもつながっていない3名の生徒について、家庭と本人に働きかけている。	B	不登校生徒数が多いと感じる。				
	<ul style="list-style-type: none"> 不登校対策の実施・充実 教育相談の強化 hyper-QUの活用 	<ul style="list-style-type: none"> いじめのおきにくい学級づくり QUの組織的活用 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止、早期発見・早期指導による解消ができる組織的学級運営 ⇒ いじめ未解決0 安全安心な学級・学校（90%） 	80%		B	いじめの未然防止、早期発見・早期指導を組織的に実践している。	B	中学生は人間関係でよく失敗するので、いじめがゼロにはならないかもしれないと考え、早期の丁寧な対応が大切だと考える。				
学校（園）の地域社会に開かれたの実現	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの充実 学校公開の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ月20回更新 年4回の土曜授業・学校公開の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、一日のアクセス数500件以上 学校のことがよくわかる（80%） 	90%		A	一日500件には届いていないものの、毎日の出来事をタイムリーに掲載できた。宿泊行事でも現地から最新情報を掲示した。	A	ホームページにより学校の様子を詳しく知ることができた。記事内のコメントもわかりやすかった。				
	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの実施 評議委員会における意見聴取 	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般への肯定的評価（90%） 	50%		B	各種広報媒体の位置づけを確認し、相乗効果を生み出す仕組みづくりが課題。	B	学校の様子がわかりやすくなってきたと感じる。				
教育の特色ある展開	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の充実 考え議論（対話）する授業により、多様な意見を受け止め、自身の価値観を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言しやすい学級づくり 授業手法について校内共通実践に向けての意識づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な対話を通し、自身や他者とのかわりについて深く考える。（80%） 	90%		A	自分の考えを伝えることの大切さ、他の意見を聞き学びを深めることの大切さを、あらゆる教育場面で生徒に呼びかけている。	A	今はできなくても、人間として理想的なあるべき姿を頭に浮かべ、それを目指そうとする、そんな道徳教育を展開して欲しい。				
	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間労働の是正 部活動複数顧問制 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外労働時間、月平均4.5時間以内 	40%		C	時間外在校時間が極端に多い教員が複数いる。	B	先生方が本当に多忙に見える。業務について、見直しができるものはどんどん見直しを欲しい。				